

「家がいいね」 第136号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2015.9.3

やっぱり何度も言わなきゃいけないか！

これは私(遠藤太二郎)個人としての意見です。20億って誰の金？次々と建設費が上がる話題の伊勢病院にあきれてはられません。市民が自分で責任分擔する病院だから、他人事ではないのです。8年前、33号「コンビニと医療と」で病院崩壊の有様を辿りましたが、今でも同じだと思います。4年前、82号「病院完結か地域医療の復権か」では、再建の進まない伊勢病院を市民の目から考えてみました。3年前、101号「住民のための病院が欲しい」では、非公開の策定委員会の方向を案じ、故竹内藤吉副院長の遺志を想いました。2年前、106号「建物を作れば中身は整う、のかな？」では曖昧な基本説明へ疑問を述べました。同時に公募の意見(「終わりよければ」いせの会として提案)には、新病院は熟考し伊勢市全域の地域包括ケアの柱で機能させよ、と強調しました。1年前、123号「伊勢市の将来は大丈夫ですか？」では地域の力が縮む現状から、適切な支援機能の病院を待望する気持ちは強くなりました。4月の131号では、34億円増額を憤りました。

伊勢のこの先は、自分の頭で考えよう (再掲)

3月2日の議会だよりとして、翌日の中日新聞の地方版の記事に新伊勢総合病院建設が「建設コストの高騰が続く中、現時点での総事業費は建設工事費以外に造成工事、現病院の解体、駐車場の整備、医療機器整備などを含めて147億円へ。4分の3を病院事業会計が起債。残りは一般会計出資金で負担する」え？何と？増額でしょう。日赤の建設費を超えそうな勢いですし、いずれまた増額になるでしょうね。伊勢の市民が、もう一つの日赤を作って将来負担するということですか。6億円余の港開設を巡った市長交代劇の記憶があります。コンパクトな病院ではダメですか？

8月末の報道では、168億円。「計画が甘かった」の言い訳は不誠実です。国立競技場のように見直すべきです。巨額の新病院は医師不足で機能しない恐れがあり、次世代へ重いツケも心配です。

暮らしの中で最期まで生きる

地域で看取るホームホスピスの役割が目に見えるようになってきました。11年前から宮崎市で、「かあさんの家」を継続している

市原美穂さんの講演が間近で聴ける機会があります。11月29日(日) 13時~14時半の時間は、他の予定を入れずお待ちください。伊勢市の地域包括ケア推進課が主催ですので、詳しい情報は今後の市広報をご覧ください。無料



病から詩が生まれる(認知症の場合)

80歳の在宅医、大井玄先生を伊勢市にお招きする機会があります。12月12日(土) 15時半からの予定を空け、待機ください。



認知症だからこそ穏やかに過すヒントを御著作「人間の往生」「痴呆老人」は何を見ているか(いずれも新潮新書)、「病から詩が生まれる」(朝日選書) などから事前にお読みください。

在宅医療推進フォーラム 四日市にて

在宅療養支援診療所が主になり、東海北陸の規模で毎年実施し、12月13日(日) 13時から四日市市文化会館で行います。チラシは後日配布

クリニックからのお誘いとお誘い

9月上旬は、看護学生の訪問同行をお願いします。また10月は研修医の訪問同行もあります。未来の在宅医療のため、ご協力をお願いします。11月には、介護者の安心のために食事介助の教室を、縁の家で無料開催予定しています。詳しい情報は来月号に掲載します。



いずれは赤トンボに



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ http://isezaitaku.com

↑バックナンバーはここで閲覧可